

1998年5月25日(第980525号)

発行人：保坂智子

編集：全国病児保育協議会広報委員会  
(大阪事務局)

発行所：〒573

枚方市香里ヶ丘3丁目B67

全国病児保育協議会事務局 ☎(0720)52-0161

# 全国病児保育協議会コース

## 第7回全国病児保育協議会研修会特集

第7回全国病児保育協議会研修会は、平成9年11月23日大阪サンパレスで開催されました。

「病児保育マニュアル」を生かそうを研修会の主題にして、全国北は岩手から南は熊本まで57施設125名の参加で大盛況でした。

当日は出来あがったばかりの病児保育マニュアルにそって、5つの講義が行われた後、テーマ別に4つの分科会で熱のこもった議論がされました。  
講義内容と分科会は下記の通りです。

### 講義内容

講義1 病児保育の歴史と課題	全国病児保育協議会会长 保坂智子
講義2 病状をどう把握するか	東京都立母子保健院副院長 帆足英一
講義3 病児の保健管理	枚方病児保育室主任看護婦 堀田和子
講義4 病児の心・親の心	日本子ども家庭総合研究所研究企画・情報部長 庄司順一
講義5 病児の遊び	淑徳短期大学講師 帆足暁子

### 分科会

#### 第1分科会 病児保育の記録をどうするか《何を記録に残すべきか》

司会：枚方市民病院小児科医長 小國龍也

助言：東京都立母子保健院副院長 帆足英一

発題①中野こども病院付属アリスの保育園病児保育室

発題②枚方市立病児保育室

発題③藤本小児病院キッズケアールーム

#### 第2分科会 看護婦と保母のチームワーク《一体的な「保育看護」をめざして》

司会：柏江すこやか病児保育室院長 野澤良美

助言：藤本小児病院看護部長 大井洋子

発題①福岡乳児院デイケアルーム

発題②藤本小児病院キッズケアールーム1

#### 第3分科会 病状に応じた遊び《受容としつけをどう考えるか》

司会：日本子ども家庭総合研究所研究企画・情報部長 庄司順一

助言：淑徳短期大学講師 帆足暁子

発題①枚方病児保育室(香里)

発題②すみれこどもケアールーム

発題③藤本小児病院キッズケアールーム1

#### 第4分科会病児保育一何でも相談室

お互いの質問に答え合おう

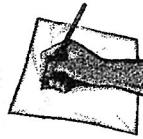
進行：乳幼児健康支援デイサービスセンターエンゼル多摩 池田宏

藤本小児病院 院長 藤本保



## 分科会の討論内容

### 第1分科会 病児保育の記録をどうするか《何を記録に残すべきか》



#### 司会者の枚方市民病院小児科 小國龍也先生より

第1分科会は帆足英一先生を助言者に「病児保育の記録をどうするか…何を記録に残すべきか」について議論しました。発題者は、中野こども病院付属アリスの保育園病児保育室の山崎聖子先生、枚方市立病児保育室林洋子先生、藤本小児病院キッズケアルーム麻生美恵先生でした。3施設とも病院に併設された施設で、保母、看護婦そして複数の医師との緊密な連携が可能という共通点があります。

発表に先立ち帆足先生より「何のために、何を、どの程度』記録に残すべきかという点に議論を集約させるよう提案がありました。

発題1のアリス保育園病児保育室の記録用紙は、乳幼児健康支援デイサービス事業のフォームでしたが保育日誌は子どもたちの様子が病状を含め詳細に把握できるもので、独自に工夫をされておられました。

発題2の枚方市立病児保育室は自由記載とも言える職員の所見が充実したフォームでした。また退室時に伝染性疾患の通園許可証を発行しているとの報告がありました。

発題3のキッズケアルームは、保育、看護、医療がお互いの役割の特徴を生かして記録していくという意図がわかるフォームで、保育日誌は日頃の話し合いを通じ簡略化されました。フロアからは病児保育室と家庭との連絡に何をどの程度伝えるか、そして保護者からどのような情報を得て如何に記録すべきかという質問、事故等に対し訴訟に耐えうる内容は如何にあるべきか、その他薬の内容をどの程度記録すべきかなど多くの意見が出されました。本分科会の主題に対する結論を出すに至りませんでしたが参加された方々は討論で得られた他施設の経験を持ち帰り各々が自分の保育室運営に役立てて頂けるものと思いました。

#### 助言者の東京都立母子保健院副院長 帆足英一先生より

第1分科会においては、枚方市民病院の小國龍也先生の司会のもとに、病児保育における記録をどうするかについて、中野子ども病院の山崎聖子氏、枚方市立病児保育室の林洋子氏、藤本小児病院の麻生美恵氏の3人より発題があった。それぞれ研修会テキストに添付されているように、様々な記録様式を利用しておられ、それに基づいてどのような点に工夫しているか等の報告があった。病児保育における記録としては、病状の把握に関する記録と、病状に対応した保育看護内容に関する記録とが必要となる。病状の把握に関わる記録の留意点としては、病状をその日、その日の「点」としての情報として把握するのではなく、数日前からの変化としての「線」として把握していくためにどのように工夫していくかが課題となる。この点については、「病児保育マニュアル」第11章(114頁参照)における保護者からの病状連絡表、家庭との連絡表、病児保育記録が一つのモデルとなろう。その際に日々の健康状態(病状)の観察項目をどうするか(同30頁参照)も問題となろう。また、病状に対する保育内容の記録は、病状に対応したケア計画、とくに看護上ならびに保育上(これを「保育看護」という)の留意点を意識化した個別的な保育内容の確認と要点の記録が求められる。この保育看護内容に関わる記録としては、まだ本協議会としてのモデルはないが、分科会資料として提示された3施設における様式をはじめ、今後各病児保育室における記録方法を集積、討議するなかで、理想的ないくつかのモデルが定着していくことが望まれる。病児保育は、入院を必要としない「病児」を対象としているだけに、突然に病状が急変したり、場合によっては突然死等のリスクも少なくないとも思われる。それだけに、適切な保育看護上の観察と最小限度の記録を実践しておくことは、不可欠な要素と思われる。

## 第2分科会 看護婦と保母のチームワーク《一体的な「保育看護」をめざして》

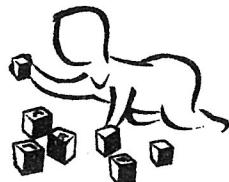
### 助言者の藤本小児病院看護部長 大井洋子先生より

参加者は、司会・発題者を含め31名、自己紹介・発題者発表ののちに、施設毎の問題の討論となつた。提示された話題は、①子供は保母になつきやすく看護婦にはなつきにくい。②外来のスタッフとの兼任であることから、外来が忙しい時に『病児保育』で子供と遊んで』と思われていなか気になる。③「病児保育」の時間が決められているが、守られず夜遅くや、朝早くになる親がいる。④薬の服薬時の工夫について。⑤「病児保育」の児がいない時の保母の配置について。等がそれぞれの施設からあがつた。①について、保母が感じて看護婦に気を使うとしたところが多かった。看護婦も感じて寂しいと思っていた。しかし看護婦が保母と同じように遊んでいれば改善される、看護婦が保母として子供にかかわる経験をする、という工夫をしてチームワークはうまくいっているという施設からの意見が上がつた。

②については、施設のスタッフ数に関係することであるが、スタッフそれがローテーションしてはどうかと意見が出された。③については、時間外の料金を設定して利用する方法をとっているところがあつた。(父母の互助会が運営している)しかしスタッフの超過勤務となるところが多かった。④については、保母が上手に声をかけてくれ薬を飲めることが多いと言う意見だった。⑤については、事務として外来にいる。壁画や保育の準備をしているが多かったが、診察の介助を行い、医師が家族にする説明や疾患についての勉強をしてもらうとしている施設がいくつかあった。

お互いの専門性を追求し、一体的な「保育看護」をする上でチームワークを作り上げる具体的方法の話題にまでは到らなかつた。専門性を生かしながら保育・看護の領域を広げて、よりよい「保育看護」が実施されるように今後もこのテーマの討議を重ねていくことが必要であると感じた。

## 第3分科会 病状に応じた遊び《受容としつけをどう考えるか》



### 司会者の日本子ども家庭総合研究所研究企画・情報部長 庄司順一先生より

参加者は25施設31名で、はじめに全員の方に自己紹介をかねて一言ずつ発言してもらいました。その後、枚方病児保育室(香里)の富永友子さん、すみれこどもケアルームの小田文江さん、藤本小児病院キッズケアルームの岡田ちえみさんに発題をお願いしました。いずれの方も、病児保育の理念あるいは基本的な立場をふまえた上で、スライドや手づくりオモチャを例示しながら、具体的な遊び、保育の工夫を紹介されました。このあと帆足先生に発題で提起された課題について整理していただきました。

討議では、①保育者がマンネリ化しないためには保育者自身が楽しむこと、②不安をもつ保護者が少なくないことから、子どものようすをことばで伝えるだけでなく、子どもがつくつたちょっととしたものをもって帰らせると、保育室にいたときの子どものようすが伝わるだろう、③子どもに安静を守らせるのは、遊びをとおして座って楽しめるように工夫するとよい、などの工夫が述べられました。テレビについては、テレビを活用するか、テレビを使わず紙芝居などを活用するか、議論がありました。病児保育は、たんに病気の回復を妨げないだけでなく、病気の回復を促す保育であるという小田さんの主張には共感するところが大きかったです。病児保育は、毎日くる子どもがちがい、また病状に応じて保育をしていかなければならず、保育者の力量が問われるといえます。しかし、一人ひとりの子どもをていねいに見ていくことは保育の本来の姿ともいえるのではないでしょうか。

## 第3分科会のつづき

### 助言者の淑徳短期大学講師 帆足暁子先生より

発題者の方々からは、病児保育室の紹介をスライドで説明したり、手作り玩具を持参して実際の遊び方の説明をして下さったり、視覚的な説明があったことが今回は特に好評でした。参加者を交えた討論では、保育のマンネリ化への不安や、体調を整えるため・病状を悪化させないためを意識しすぎた潤いのない保育になっていないかという問題が提起され、子どもを楽しませる保育ではなく、自分が楽しもうという視点から考えたらよいという意見が出されました。また保育をしてきての工夫として、年齢差がある子どもも集団になることが多いので、その子ども達が一緒に楽しく遊べる遊びとして坊主めくりや折り紙、又テレビ・ビデオの活用という案も出されました。テレビについては、置いていない保育室が参加施設中3施設あり、子どもにじっくり関わりたいという視点から敢えてテレビを置かずに保育することや紙芝居の良さについて意見がのべられました。また、置いてある施設からは、子ども自身が何をして遊んだらよいか分からない時や見慣れたものを見るということには有効ではないか等、論議されました。また、保護者が迎えにみえた時に、子どもの笑顔に出会えるような保育をすべきではないかという提案や保護者に見える保育の大切さ、地域のみんなで病児を育てていこうということを全面に出すことの意義についての提案もなされました。しつけと受容についても発題を中心としながら少し意見が出され、危険なことについては制限をするが、丸ごと受容することが望ましいのではないかとの発言がありました。

今回の分科会は、遊びを中心とした保育のあり方についての意見が多く交わされ、保育者の「子どもへの思い」と、丁寧な保育の積み重ねが親との関係にも大切であるということでまとめられました。



## 病児保育マニュアルをご希望の方は協議会事務局まで

協議会加盟施設の方には1000円+送料実費でおわけしています。

### マニュアルの内容

- 序 文 小田清一厚生省児童家庭局母子保健課長
- 第1章 病児保育とは
- 第2章 病児保育の歴史
- 第3章 病児保育の実態
- 第4章 病児保育における保健管理
- 第5章 病状別にみた対応
- 第6章 病児保育における保育内容
- 第7章 病児の心、親の心、
- 第8章 病児保育における医療、福祉の連携
- 第9章 病児保育における書類
- 第10章 病児保育における設備、備品
- 第11章 補助金委託への道



## 第4分科会 病児保育一何でも相談室

助言者の藤本小児病院院長 藤本保先生より

参加者は司会2名を含んで17名でした。

まず全員が自己紹介を行いました。

参加者の内訳は医師9名、大学院生1名、乳児院3名、医療保母2名、看護婦1名  
保護者代表1名でした。

参加者から、記録書式の診断名コードには消化不良しかないが、急性腸炎を入れてほしいとの要望が出された。

質疑応答では下記のようなやりとりがあった。

問1：市から補助がないのに延長病児保育の申し入れが市から行われた。どのように対処したらいいでしょうか？現在は8:00AM～6:00PMの受け入れを行っている。

答1：枚方(香里)では延長保育を今年の4月より開始している。登録制をとっており現在50名を超す登録がある。登録料は2000円である。利用時には別途300円の保育料を徴収している。現在は市からの補助はなく、保護者の負担で行っている。

保育所側の問題としては労働時間の問題がある。延長保育ができる条件があるなら、まずやってみたらどうだろうか？その後に補助金の話を市に出すとよい。

労働時間の問題をクリアする方法としては、施設基準の職員の条件が看護婦等となっているので、看護婦1名と保母のパートを採用するとよいのでは。

問2：医療機関との関係をどうつくっていったらよい？

医師会が責任を持てないとこのことで受け入れられなかつた。併設の病院小児科を必ず受診しなくてはならない。

答2：

福岡市では小児科医会が医師会を動かして市へ話を持つて行った。

川崎市：手上げ方式の嘱託医6名。市から1回15000円支払っている。

問3：かかりつけ医からの入室はどうなっているか。

答3：

①入室してから回診の場合

②入室時にチェック(診察)してから入室の場合がある。

③いづれの場合でもかかりつけ医連絡票の利用が望ましい。

問4：キャンセルをどのようにしているか。キャンセル料を取っているのか。

答4：川崎は待機が多く、キャンセルがあれば待機者にすぐ連絡している。

問5：無断キャンセルに対してどう対処しているのか。

答5：保育園へ連絡するとよい。

問6：保護者負担の料金は。

答6：宮崎では1500円である。

問7：感染症があった場合の断り方は。また感染症のこどもをどのようにみるか。

答7：隔離室がいっぱいであれば他の施設へ紹介も必要。

問8：病児保育を補助金をもらわずにでもやりたい。

答8：現時点での施設基準を満たすように始めておくとよいのでは。

以上のような内容が熱心に討議された。



## 第8回全国病児保育協議会総会 と第3回施設長研修会のご案内

於 大阪サンパレス

### ◆ 施設長会

5月30日(土)午後1時～

☆ 招待講演 厚生省児童家庭局母子保健課課長補佐  
北島 智子先生

☆ 基調講演 東京都立母子保健院副院長

帆足 英一先生

☆ 施設紹介

☆ 分科会

・第1分科会 乳幼児健康支援デイサービス事業(病児保育)  
新規開設について

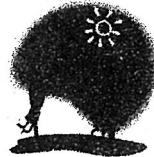
・第2分科会 開設1～3年の問題点

・第3分科会 開設3年以上の問題点

### ◆ 総会

5月31日(日)午前9時～

☆ 事業報告、事業計画、決算報告、予算案、役員選出



### 会報への投稿のお願い

全国紙にふさわしい多彩な紙面を作るためにたくさんの方々からのご投稿をお待ちしています。

投稿先：全国病児保育協議会事務局

#### □施設紹介のコーナー

各施設の特徴、スタッフの横顔、保育・看護の様子、運営の苦労話、などを紹介します。

原稿は800～1200字以内

写真はできるだけ添えて下さい。

応募のあった施設から、順番に掲載していきたいと思っています。

#### □各地の話題

マスコミの報道や各自治体の病児施設支援援助の動向など送って下さい。

#### □イベント、刊行物等の紹介

全国の方々にご紹介した方がいいイベントや学会、刊行物などの情報をお寄せ下さい

\*その他会へのご意見など何でもお寄せ下さい。

